

中学校交流大会 報告

8月20・21日の2日間に渡り、中学1・2年生の新チームになってから初めての大会である、中学校交流大会が行われました。本来であれば、戦評という形で記録を残すところですが、男子はリーグ戦、女子も1日目リーグ戦、2日目順位決定戦と試合数が多く、どの先生も時間が取れない状況でした、そのためにこのような形で、報告をさせていただきます。

男子

今大会の男子は、和寒中学校が休部という形になり、5チームでの総当たりリーグ戦となりました。どのチームも力が拮抗しており、1桁点差の熱戦が繰り広げられました。中でも、キャプテン高橋君の個人技を中心によくまとまった土別中学校が4戦全勝で見事優勝を収めました。名寄東中との対戦以外は、20点差以上をつけ危なげない勝ち方でした。46 - 43と大接戦となった名寄東中戦でも、体格的には劣っているものの、その不利を跳ね返し、勝負時にしっかりと得点を決めることのできる良いチームでした。

2位になった名寄東中も藤田君の能力の高さが目立つものの、それだけではなく、どの選手も良く鍛えられ、バランスの取れた良いチームでした。身長的にも大きめの選手が多く、土別中高橋君の1ON1に対しての対策を考えていけば、今後の大会で充分優勝できる力を持っていると感じました。

3位の土別南中学校も、村上君のドライブや西嶋君のリバウンドやインサイドを中心に良く頑張りました。2年生が4名しかおらず、バスケットを始めたばかりの1年生が入る苦しいオーダーでしたが、2位の名寄東中とも、55 - 59の接戦を繰り広げ、何とか3位に入りました。

4位の名寄中学校も、今回の大会では1勝3敗という結果でしたが、長身のセンターもあり、バランスの良いチームでした。今後試合に慣れ、それぞれの役割がはっきりと理解されれば、上位チームを脅かす、怖い存在になることと思います。

残念ながら5位となってしまった多寄中学校は、1日目にキャプテン山田君が体調不良のため出場できなかったことの影響が大きく、今回は、本来の力を出し切ることができませんでした。名寄中学校と、54 - 62という接戦をした力が、本来の力だと思いますので、今後の大会にベストの状態で臨み、頑張してほしいと思います。

男子全般を通して（感想と今後の大会に向けて期待すること）

個人的能力の高い選手や、試合のキーポイントになる選手を、チームとしてディフェンスする術が無いチームが多かった。今後の大会では、チームとしてのディフェンスを見せていただきたい。セットオフenseで、カッティングの技術が定着していず、パスカットされる原因になっている。パスのセレクションやパス自体(特にパスが弱い)が悪く、パスカットされる原因になっている。パスカットからの速攻という場面は多く見られたが、リバウンドからの速攻を出すことができるチームは少なかった。旭川のチームとの対戦や、北大会での対戦で強いチームと対戦する際には、パスカットが何度もできるという保障はありません。リバウンドからの速攻をうまく使うことができなければ、セットオフenseでの勝負となり、体格的な不利、外角のシュート力不足などが原因で負けてしまいます。

どのチームも中学生らしく、一生懸命、必死にプレーする姿が見られた。

女子

優勝した土別南中学校は、全試合全員出場、全試合100点ゲームということで、危なげない勝利でした。土別南中学校には、今後も目標を高く掲げ、この地区内で満足することなく努力を続けてもらいたいと思います。

2位の土別中学校は、決勝で35 - 106と点差はついたものの、影井さんのスピードあるドリブルで、土別南中のディフェンスをきれいに抜き去る場面が何度か見られました。また、1日目の予選では2試合ともオールコートのディフェンスによる100点ゲームで勝利し、夏休みによく練習を積み、2試合走り続ける体力と、脚力を作ってきたことを証明していました。

3位以下の名寄東中、和寒中、美深中、名寄中については、土別南中・土別中に100点ゲームをされてしまうということで、確かに現時点で力の差はあると思います。しかし、新チームでの練習はまだ始まったばかりです。これから約10ヶ月一生懸命頑張り、力の差をうめていってほしいと思っています。

厳しいようですが、プレスディフェンスにかかりボールを奪われ続けるということは、ほとんどの場合100点ゲーム（あるいはそれに近いワンサイドゲーム）になってしまいます。だから、相手チームのプレスディフェンスが予想される場合には、チームとしてのプレスダウン（プレスに対してのボール運びの方法）を用意しておかなければなりません。プレスダウンというと、フォーメーション的な形だけを思い浮かべるかもしれませんが、

ディフェンスを振り切るカッティングの能力。

ディフェンスの位置ともらう場所を考える空間認知の能力と、駆け引きの能力。

ディフェンスのプレッシャーに負けないしっかりとしたパワーポジションと、ピボットそして視野の確保。

プレッシャーに負けない強いパスと正確なキャッチ。

プレスディフェンスをかけられても克服したという経験と自信

以上を1試合（2試合）やり続けることのできる体力・精神力

以上のようなことの土台の上に成り立つものだと考えられます。私の指導したチームでも、土台の無いところに、フォーメーション的な部分だけを教えてしまった場合もあります。当然うまく運べるようにはなりません。反省の連続です。

すぐに全部とは行かなくても、少しずつでも、練習の中で意識をして取り組んでほしいと思っています。3ヶ月くらい意識をして頑張れば成果が現れ始めると思います。11月の新人戦では100点ゲームが少なくなることを期待しています。

大会を終えて

北海道の中でも小さな地区である名寄地区では、競技人口の確保（増加）ということが非常に重要な課題です。ですから「中学校にバスケット部がある」、「大会に出場できる」ということ自体が大切な財産です。どのチームについても、次の大会も、またその次の大会も、日々の努力を重ね出場し活躍してくれることを願っています。

バスケットの指導経験が無く（少なく）練習などでお困りの際には、名寄地区強化委員長（土別南中）杉本 か、名寄地区ジュニア連盟強化委員長（名寄中学校）堀口 までご相談ください。可能な限り要望には応えて行きたいと思っています。合同練習や練習見学など、いろいろな形が考えられると思いますが、相談くださった方の都合に極力合わせたいと思います。

最後になりましたが、当番校の名寄中学校の先生方、貴重なお休みの日に審判をしてくださった皆さん大会運営ありがとうございました。

土別南中学校 杉本